

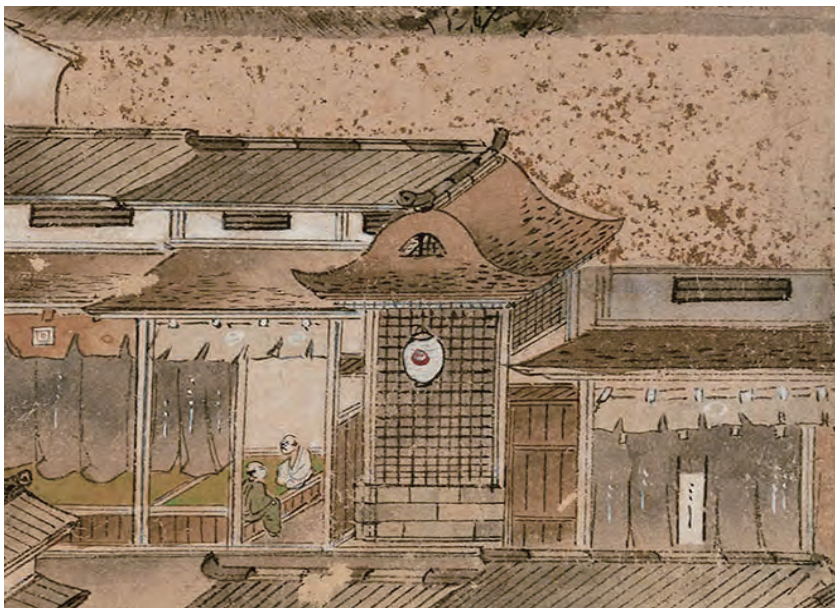
Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.51

今もある町名だけど 同じ名前でも場所が違う？



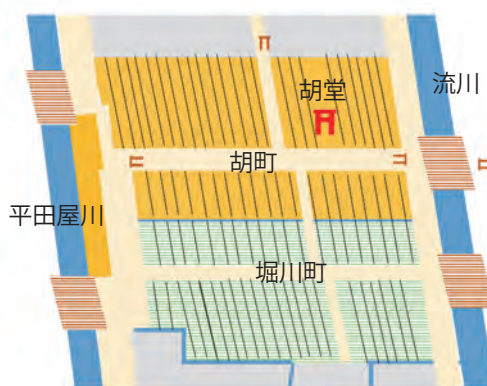
「広島城下絵屏風」(広島城蔵)に描かれた胡社(左)と、現在の胡子神社(右)。どちらも胡町にあります。現在の社地はもとの位置より若干東側に移っています。

江戸時代の広島城下には、六十を超える町人町があり、五つの町組に編成されていました。また、城下の南には干拓等で新しい村々が開かれ、新開組に組み入れられていきました。それらを受け継いで、現在も、城下町時代の地名に由来した町名がたくさん見られます。

城下町の時代から現在も続く町名を挙げれば、銀山町、胡町、堀川町、猿猴橋町、京橋町、橋本町、稲荷町、東白島町、西白島町、立町、中町、袋町、紙屋町、十日市町、猫屋町、堺町、寺町など、なじみのある名前を確認することができます。これらの町名が変わらず続いているのだから、当然町の範囲も江戸時代とは変わらず同じ場所のはずだと、みなさん思いませんか？ ところが実は、江戸時代と現在では、同じ町名でもかなり範囲が変わっていることがほとんどです。どうしてそんなことになったのでしょうか？

一例として、現在中区にある「^{えびすちよう}胡町」を取り上げて考えてみましょう。町名の由来は、商人層の信仰を集める胡堂がこの地に勧請され、市が立てられていたことによります。ちなみに、東隣の^{ひがしひきみどうちよう}東引御堂町も、胡堂がこの地に移ってきたことに

由来する町名です。胡町には現在も「胡子神社」の名でお宮が鎮座し、11月の大祭は広島を代表するお祭りの一つとなっています。胡町は戦前まで衣料品関係の店が多かったことでも知られ、文化年間の様子を描いた『広島城下絵屏風』でも反物類か衣類かを扱う店の様子が見えます。



それでは、胡町の範囲を確認してみましょう。上の図は、承応3年(1654)の『承応町切絵図』(広島市立中央図書館蔵)や享保13年(1728)の『広島町新開絵図』(広島市文化振興課蔵)に見る胡町を模式化したものです。「胡町」と大きく書か



「広島城下絵屏風」(広島城蔵)の胡町付近。右下に見えるのが流川と流川板橋。西側の流川筋以西が胡町の家々で、真ん中に鎮座しているのが胡社。衣料品を扱っていると思われる店の西側(左)が八丁堀筋と八丁堀。南側(下)が堀川町ということになります。

れている道は、『広島城下絵屏風』にも描かれた西国街道筋です。(その南(下)の堀川町筋も西国街道として利用された道筋ですが、今回は触れません) その西国街道を挟んで濃く彩色されているところが胡町です。道路を挟んで構成されるこのような町を両側町と言います。向こう三軒両隣は同じ町ですが、細い水路(水道)を挟んで背中合わせに接していても、色が違う堀川町は別の町です。街路の両端には、町門が設けられ、夜間には閉じられて通行が遮断されました。承応3年の町切絵図ではこれらの門が確認できますが、宝暦8年(1758)の大火後、西国街道にあった町門は整理され、胡町の両端の門は『広島城下絵屏風』では描かれていません。文政年間(1818-1830)の地誌『知新集』には、町門は鉄砲町筋の一つあるとのみ書かれています。鉄砲町「筋」というのは、胡町の北に位置する鉄砲町の中を通る「道路」のことで、英語の"street"とか"avenue"に当たる言葉です。欧米では、通りの名前とその通りに振った番号で住居を示す方法が一般的で、例えば、イギリス・ロンドンの名探偵シャーロック＝ホームズの住居は、「ベーカー街221B (Baker St.221B)」という標記で表すことができます。このような住居表示を「道路方式」と言います。江戸時代の町も、形としてはこの方式に近く、道筋で町を表していました。胡町筋と言えば、胡町の中を横断する西国街道のことを指したのです。しかし、現在の広島市で私たちになじみのある住居表示とは、ずいぶん違ってきます。

明治時代以降、広島市では何度か町名の改編が行われてきましたが、旧西国街道沿いのかつての町人町には、大きな変化はありませんでした。『広島新史資料編Ⅲ』所載の「新旧町丁図」で該当地区を見ると、昭和20年(1945)ごろまでは町域も

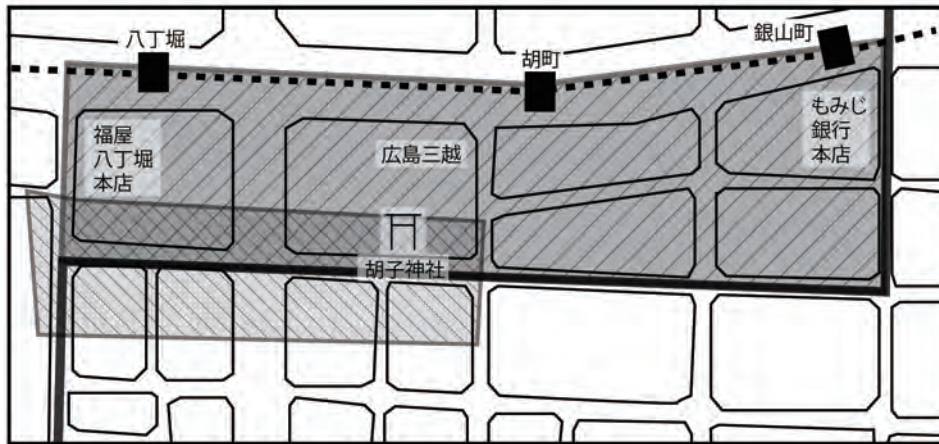
町名も江戸時代とはあまり大きく変わらなかったようです。昭和8年(1933)の町名改編でかつての東引御堂町が東胡町に変わっているくらいでしょうか。

ところが、昭和40年(1965)、広島市で住居表示制度が開始されると、町名や町域が大きく変わることになりました。新しい町の名称は、原則、従来から引き継がれている町名など、その地域の由緒ある名称をよりどころとしました。ですから、最初に紹介したような江戸時代からある町名も残りました。しかし、それまでの町が両側町のように道路を基準として区別されていたのに、町の境界を道路や河川とする「街区方式」が新たに採用されるという大変更が行われることになりました。あわせて、小さな町は整理統合され、逆に大きい町は、町の中を東西南北の方位で、あるいは一丁目、二丁目と数字で区切って整理されました。この時の再編成によって、由緒ある町名の中には失われていくことになったものもたくさんありました。

一方、「本通」のように新たに町名になったものもあります。江戸時代の「本通」は、字のごとく「メインストリート」の意味で、城下を東西に横切る西国街道を指しており、町の名前ではありませんでした。しかし、この住居表示制度開始の時、正式に町名になりました。ということは、もとは別の町名だったところが「本通」という町になった、ということでもあります。実際に、江戸時代の胡町の南西端の一部は、今の本通の一部になっているのです。

昭和40年に町域が変わった胡町の現在の範囲は、北は相生通りの南で、東はもと東胡町(江戸時代の東引御堂町)を含む銀山町電停の信号から南に下る筋の西、西は福屋八丁堀本店の西になる金座街から東、そして南は旧西国街道だったえび

す通り北側となっています。町の東半分は昭和40年以前は胡町ではなかった部分、そして昭和40年以前は元々胡町だった南半分が、現在では堀川町に変わっているということになります。昔も今も変わらず胡町なのは、金座街と流川通りの間で、えびす通りより北の区画だけ、江戸時代の胡町の半分以下なのです。江戸時代の町域と現在の町域を一つの地図に書き入れると、おおよそ次のような図になるかと思えます。



現在の胡町範囲
江戸時代の胡町・推定範囲
旧西国街道筋

城下町時代の町名は、その由来などをたどってみるのも面白いのですが、例えば、江戸時代の立町や紙屋町が現在のどのあたりにあった町なのか、あるいは同じ町名でも、かつてとは違う範囲なので、今の立町や紙屋町はもとは何町だったのか、など探してみるのも、広島という町の歴史と変遷を知る一つの方法であり、興味深い内容を含んでいると言えます。地図の上で、あるいは実際に歩いて、広島の町のひみつを探ってみませんか。

わたしのおすすめ に見られたらラッキーかも、と思った スポット



この場所、本丸上段なのですがどのあたりかおわかりになるでしょうか？ 写真の奥の方に階段が見えますね。この階段を上ると、東小天守跡で、その先に天守が見えます。従って、ここは本丸上段北側、かつて東小天守と北櫓の間にあった長櫓があった辺りということになります。

この写真は、今年の2月ごろ、雨上がりの日に偶然写すことができたものです。手前に水溜まりが見えます。その奥にも水溜まりがあり、びっくりしたことにたくさんの水鳥が集まっています。普段はお堀でしか見かけない鳥たち、どうも水溜まりの水を飲んでいたので、私の姿に気づくとみな一斉に飛び立って、向って右手(北側)のお堀の方に戻ってしまいました。

お堀にあんなに水があるのに、なぜわざわざこんなところまで来て水を飲んでいたのでしょか。おそらく、太田川から取水している広島城のお堀の水は、汽水域のため、塩分が多いのではないのでしょうか。そう考えると、鳥たちが普段はどこで水を飲んでいるのかも気になります。

3月を迎え、春めいてきましたので、水鳥たちの姿が見られるのも後しばらくの間となりますが、運が良ければ堀から上がって水を飲む鳥たちに会えるかもしれません。



「安芸国広島城図」(広島城蔵)より、広島城本丸の部分。北側(上)には、西(左)から大天守、東小天守、北櫓が描かれています。○の辺りが今回ご紹介したスポットです。

おしえて！広島城博士 15 「たてまち」と「よこまち」



「寛永年間広島城下図」（広島城蔵）より。
北側に広島城の外堀、城内から西国街道に続く道筋に
「たて町」、西国街道沿いに「東横町」「西横町」と書かれています。

しろうとくん（以下👦）「ねーねー、博士？広島
の町には『立町』ってあるけど、何が立っったん？」
広島城博士（以下👨）「別に何か立っった訳
ではないぞ。実は、江戸時代の書物を見ると、『豎
町』とか『楯町』という漢字が当てられているこ
ともある。大事なのは『たて』という読みで、ズバ
リ意味は『縦の町』ということなんじゃ。」

👦「どういうことなん？そもそも『縦』とか
『横』って、どっちに向いていたら『縦』なん？」

👨「ええ質問じゃ。広島城とその城下町を毛利輝
元が作ったのは知ってるな。その時に、城の方か
ら南に向かう南北の道を基準としてその向きを
『縦』、それに直交する東西の道を『横』と考えた
んじゃ。江戸時代後期の『知新集』という本にも、
『すべて廣嶋の町南北を豎（縦）とし東西を横と
す。』と書かれておるよ。」

👦「へ～！『縦』だから『たてまち』？！と、言
うことは、『横』の『よこまち』もあるんだね？」

👨「あつたんじゃ。むかしは『よこまち』もあつた
んじゃよ。もう少し詳しく説明しようかの。今号の
『今もある町名だけど』でも説明されておるんじゃ

が、今の町は道や川を区切りにして境を決めてお
る。でも昔は、道を挟んだ両側の家々を区画にし
て町を作っておったのじゃ。『向こう三軒両隣』と
いうように、お隣同士だけでなく、道の向かい側
の家も同じ町内と考えたんじゃ。こういう町は、道
の両側の町でできているから『両側町』と言うよ。」

👦「あ、道は縦の道も、横の道もあるから…」

👨「広島の場合は、南北に通る『縦』の道を挟ん
でいる町を『たてまち』、東西に通る『横』の道を
挟んでいる町を『よこまち』としたんじゃ。『立
町』は『たてまち』であることを、読みのまま町名
にしたものなのじゃ。かつては城下町を東西に横
断する西国街道に沿ってできた『横町』もあつた
のじゃが、残念ながら昭和40年（1965）に大幅な
町名変更が行われたときになくなってしもうた。
本通商店街の路上には、むかしの町名を記したプ
レートがはめ込まれておるんじゃが、なくなった
『東横町』や『西横町』の名前も見ることができ
るよ。江戸時代の地名は、昔から変わらず残っ
てるものも、なくなってしもうたものもある。おもしろ
いけえ、調べてみんさいや。」

新着資料のご紹介



紙屋町交差点南側の高いところから、昭和産
業博覧会でにぎわう紙屋町一帯を写しています。

本年度も、市民のみならず、写真資料や刀
剣など、いろいろな資料の寄贈をいただきました。
ありがとうございます。その中から1点をご
紹介します。左の写真は、昭和4年（1929）に開
かれた、昭和産業博覧会の時の紙屋町一帯を撮影
した写真です。遠景には、広島城天守の姿も確認
する事ができます。

なお、新年度には、企画展「学芸員のおススメ
Part2」を予定しています。その中で、新着資料か
ら一部ご紹介いたします。ぜひご覧ください。
（今号の担当：前野やよい）

しろうや！

広島城

編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011

広島市中区基町 21-1

電話：082-221-7512

FAX：082-221-7519

平成29年3月25日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料：大人370円（280円） 中学生以下無料

高校生相当・シニア（65歳以上）180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～31日（臨時休館あり）

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>